

## BS・VS部門プログラム実証の取り組みについて

2021年1月17日

日本連盟プログラム委員会

### 【実証の報告】

#### 1. 実証団の募集

- ・ 昨年の5月に全国の県連盟に実証団の募集をかけたところ、福岡、兵庫、奈良、埼玉、栃木の5県連盟8個団が応募いただき、そのあと、神奈川、東京から6個団が加わり、計7県連14個団に参加いただいた。上記に加えて、今年度に愛知の1個団が追加、福岡の1個団が辞退という動きがあった。
- ・ 実証にあたり説明会（東京、兵庫、福岡、神奈川）を開催、実証の趣旨および展開について説明した。

#### 2. 実証内容

- ・ 各団の実情に合わせた隊運営のあり方と年間プログラムによる「実証計画」に基づいて実習活動を展開していただいた。
- ・ 事前説明会の他、4回の「実証団集会(リモート)」を実施して、実証の展開方法と情報の収集と共有を行った。
- ・ コロナ禍で対面での活動が困難であった時期に、『ジュニアリーダーの手引き』を作成し、ジュニアリーダー（とりわけ上級班長）を中心とした隊運営（プログラムサイクル）を意識的に各隊で展開していただき、その効力について報告を受けた。
- ・ ベンチャースカウトを対象に、「実証団ベンチャー集会」を開き、他県連盟のスカウトと探検旅行を企画することを通してベンチャースカウトの活動の在り方を話し合う機会を作った
- ・ 団訪問はコロナ禍の影響もあり、実際に集会等の現場に伺う機会は数回ほどしかできなかったが、後半リモートを活用し実証団への聞き取りを行った。

#### 3. 実証の成果

- ・ ベンチャースカウトがジュニアリーダーとして活躍することによって、BS部門およびVS部門ともにスカウトの意欲や成長に対して効果が非常に大きいことを改めて確認ができた。ジュニアリーダーとしての活動が両部門にとって、スカウトの活動意欲の増進と心身の成長にとって、大きなファクターとなると考察する。
- ・ 一方で、ベンチャースカウトにジュニアリーダーとしてBS部門の隊運営に活躍してもらうためには打ち合わせやトレーニングに多くの時間がかかり、ベンチャースカウトとしてのプログラムのための時間を作りにくいとの声も多くあった。しかしその要因として、ジュニアリーダーが時間を奪われると感じる仕事として負わしている（義務ばかりの負担、権限は与えられていない）ことにあり、上級班長が一定の権限を持ち、自分の裁量と自信をもって隊運営や後輩指導にあたるたことができる環境とサポート作りが必要であることが見えた。また、従来のようにプロジェクト実行に偏ったベンチャースカウトの活動を根本的に見直し、スカウトが自分興味や冒険心に基づいて、自由な発想をもって取り組めるプログラムのできる環境を考える必要があることが見えた。
- ・ BS部門とVS部門の一体的な隊運営の方法は、隊の人数、年齢構成に大きく左右されるため、BS隊とVS隊を1つ隊として一定の形をもって示すことが困難なことであることが見えてきた。人数が少ないC・Dカテゴリーの隊では、組織図的に隊運営の体系を組織することが困難となる一方、人数が多いS・Aカテゴリーの隊では、一人の隊長で隊全体を把握することが難しくなる面も見えてきた。

- ・プログラム面については、年齢に沿ったニーズや能力(体力・知識・経験等)に合わせた活動の展開を前提とするスカウト教育において、BS部門とVS部門を1部門としてプログラムを展開することのメリットを十分に見出すことができなかった。しかしながら、シームレス化された進歩制度を通して、BS部門とVS部門の活動を関連付けて生まれる効果(習得したスキルの応用による活動意欲の累進、後輩への指導によるリーダーシップの発揮)は期待されると考察される。
- ・本来のスカウト主体の活動にするために、指導者のスカウトへの関わり方を見つめ直す必要があることが見えた。指導者の過剰な関与(先まわりした指導や失敗の未然の解消の行動など)が、スカウトが隊や班の中で活躍することで生まれる意欲や、失敗を重ねて得る成長する機会を奪っていることが、班長、上級班長をなどのジュニアリーダーが育たない大きな原因であることが、改めて見えてきた。

### 【実証成果を受けて一体的運営に関するプログラム改定の答申】

#### 1. 年齢区分の変更（BS部門を小学5年生からとする）

BS部門におけるスカウトの退団理由に、中学受験によりCS隊から上進後すぐに休隊となり、そのまま自然退団となるケースが、特に都市部を中心に見受けられる。CS隊からの上進時期を1年前倒しすることにより、やむを得ず進学ために休隊をするスカウトも、BS部門の活動を一定期間経験して活動の楽しさを知ったのちに休隊することにより受験後に活動に復帰を望むことを、退団を防ぐことを狙う。

#### 2. 月の輪の廃止

平成27年からスタートしたつきの輪プログラムは、CS部門からBS部門へのスムーズな上進を目指したものであったか、その運用において担当する指導者が部門間で明確でないため、十分にねらいとした効果を得られなかった。今後は、小学5年生で上進後、スカウトバッジを着用し、見習い期間として初級章課目に挑戦したのち、ちかいを立てて正式なスカウトとして活動に参加する。

#### 3. 部門区分

BS部門とVS部門の一体的な運営方法は、人数・年齢構成に大きく左右されるため、隊運営の形態およびプログラムを一つとして一定の形をもって示すことが困難であることを受け、BS部門とVS部門の年代区分についてはその部門の区分けを現状の通り維持して、それぞれの年代の教育目標に応じた活動を進めていく。また、両部門においてシームレス化した進歩についても現状通り維持しつつプログラムの在り方を根本的に見直し、スカウトが富士スカウト章を目指ことで活動の意欲とスカウトの成長の促進を目指す。

#### 4. 一体的な運営

ベンチャースカウトがジュニアリーダーとして活躍することによって、BS部門VS部門ともにスカウトの進級意欲や個々の成長に対して効果が非常に大きいことを受け、VS隊のスカウトが、上級班長・隊付きなどのジュニアリーダーとして隊運営を中心となることをBS隊の運営の基本とする。組織図的な運営の体系や役割分担については、団の人数・年齢構成に応じて柔軟な展開を目指す。上級班長が自信をもって隊運営や後輩指導にあたるために必要な支援が受けられる環境作りとして、上級班長のトレーニングを開発する。初期段階では、成人指導者の上級班長の支援や関与の方法ことも見直すことも視野に入れ、県連盟や地区での集合訓練の形態も検討する。

以上